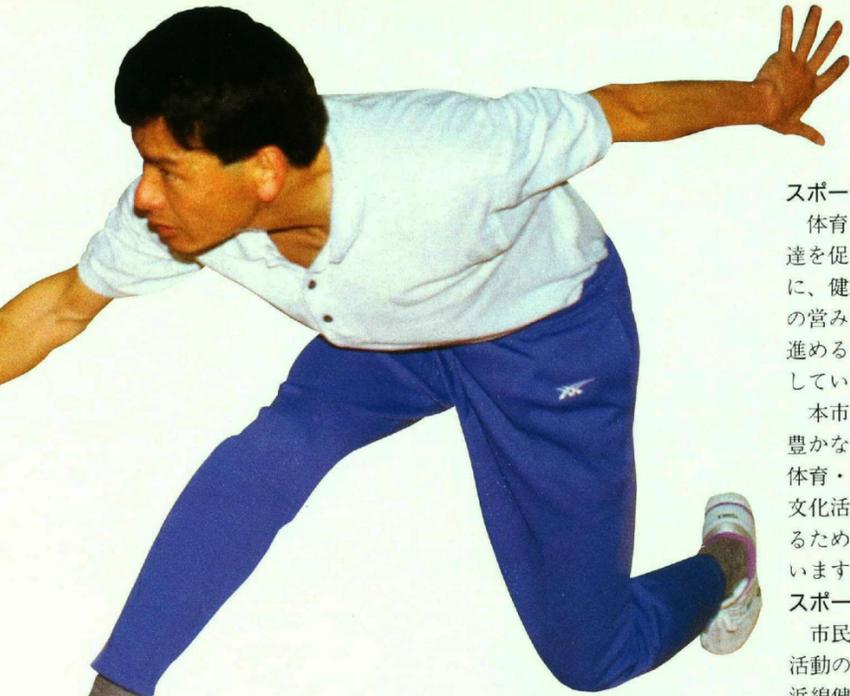


豊かで明るい
長寿社会の創造



健康文化



清水スポーツセンター

スポーツ・レクリエーション

体育・スポーツは、健全な心身の発達を促し、人間性を豊かにするとともに、健康で文化的な生活をおくるための営みであり、活力ある都市づくりを進めるうえで極めて重要な役割を果たしています。

本市では「21世紀へ向けての明るく豊かな健康文化都市づくり」を目指し、体育・スポーツを、生涯を通じた健康文化活動としてとらえ、その実現を図るための総合的な施策の推進に努めています。

スポーツ施設等の整備拡充

市民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として、公園機能を備えた浜線健康パーク、南部総合スポーツセンターをはじめ、野球場、武道場、庭球場、体育館並びに水前寺競技場など多くのスポーツ施設があります。また、本年3月には、清水スポーツセンターも新たにオープンしています。

さらに、今後市民が日常生活の中で、いつでも気軽に利用できるような健康文化施設の整備拡充と効果的利用の促進に努めていきます。

スポーツ活動の振興

市民総参加として定着している市民体育祭など各種行事を尚一層推進するとともに、ミニバレーボール大会など地域に根ざしたスポーツ文化活動の促進、高齢者スポーツの普及啓発など市民総スポーツ活動の推進に努めていきます。このほか社会体育組織の充実や指導者の育成・確保にも力を注いでいます。

豊かで明るい
長寿社会の創造



雇用福祉

ゆとりある勤労者生活を応援します。

本市の雇用福祉対策は、人材の確保・定着、勤労者の技能・技術の向上、勤労者の福利厚生の実施を主な事業として、勤労者の皆さんが豊かなライフワークを送ることができるような職場づくりのお手伝いをしています。

(人材の確保・定着)

若年労働者の確保・定着を図るため、職業安定機関との連携を図り、近隣町とともに熊本雇用対策協議会を組織する一方、熊本市産業開発求人対策協議会等民間団体とともに人材の確保に努めています。

また、中高年齢者雇用対策として熊本中高年齢労働者福祉センター（サンライフ熊本）や熊本市役所に相談窓口を設置しています。

(技能・技術の向上)

本市産業の発展を担う若年技能者・技術者等の人材育成

機関として熊本市職業訓練センター、熊本市職業訓練短期大学校、熊本市事業内高等職業訓練校の運営を支援し、また勤労者・未就職者・転職希望者等を対象にパソコン・ワープロなどの各種講座を設けています。

(勤労者福祉の向上)

施設面では、勤労者の健康増進と文化・教養の向上を目的として設置された中央勤労青少年ホーム、北部勤労青少年ホーム、勤労婦人センター、熊本中高年齢労働者福祉センター（サンライフ熊本）、熊本勤労者体育センター、熊本勤労総合福祉センター（火の国ハイット）があり有効利用を図っています。

制度面では、熊本市中小企業勤労者福祉共済制度を設け、勤労者のスポーツ大会・団体ツアー等勤労者の福利厚生のために各種の事業を行っています。また、勤労者の生活の安定と進を図るため、熊本県勤労者信用基金協会に出捐しています。



熊本市
職業訓練
センター

さらには、退職金制度を普及するため、中小企業退職金共済制度掛金の助成を行っています。

中小企業のための ふれあうきょうさい

熊本市中小企業勤労者福祉共済
あなたの会社の福利厚生を熊本市があと押しします。

- この共済に加入されると、わずかな掛金（1人1月300円）で…従業員の方々に…
福利 自分の時間を積極的に活用して楽しい思い出を
 それぞれの季節… ツアー旅行 に安い費用で参加できます
 職場対抗… スポーツ大会 で汗を流して親睦を盛りだくさんの… パーティー で心に残る思い出を
 今の世の中… 文化教養講座 を軽い気持ちで
 夏には… 海・山の家 が利用できます
 いるんな… 割引があります
 いるんな… 補助もあります

- 給付** お祝い、お見舞いとして
 満20歳に達したとき… 成人祝金
 結婚したとき… 結婚祝金
 出産したとき… 出産祝金
 子供さんが小学校に入学したとき… 入学祝金
 子供さんが中学校を卒業したとき… 卒業祝金
 銀婚式を迎えたとき… 結婚25年祝金
 病気やケガで30日以上欠勤したとき… 傷病見舞金
 共済加入期間が5年を超えたとき… 永年褒賞金
 共済加入期間が10年を超えたとき… 永年褒賞金
 本人が死亡したとき… 死亡弔慰金
 配偶者が死亡したとき… 死亡弔慰金
 1親等血族が死亡したとき… 死亡弔慰金
- 貸付** 不時の出費が必要なときに

豊かで明るい
長寿社会の創造



消費者行政



「ストップザ過剰包装」キャンペーン

私たちを取り巻く経済社会の変化はめざましく、多くの物やサービスで豊かになりました。日々新しい商品が出回り、果たしてどの商品がより安全なのか、品質がより優れているか、価格は適正かなど、見分けることが難しくなってきました。また商品が私たちの手に渡るまでの仕組みも大変複雑になっています。そのうえテレビやラジオ、新聞雑誌などによる商品の広告宣伝も、私たちへ大きな影響を与えています。

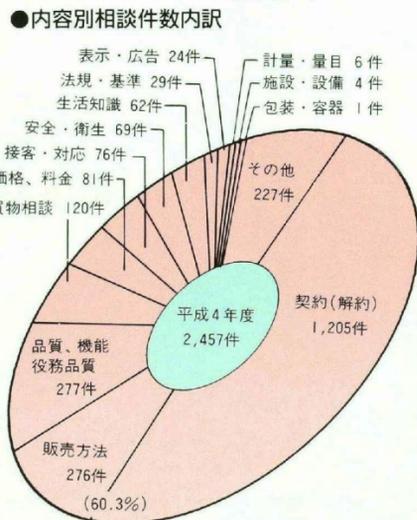
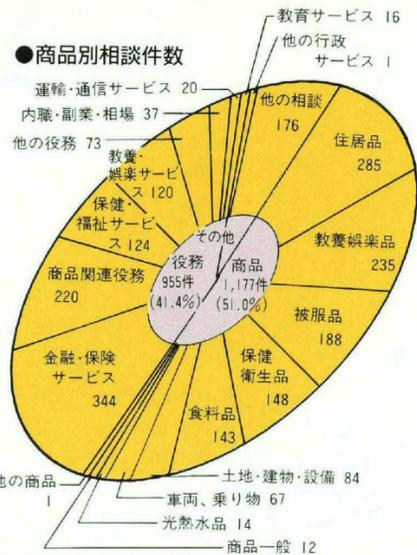
このような状況の中では、消費者の利益が損なわれたり、時には深刻な被

害をもたらしたりすることもあります。そこで我が国では、昭和43年に「消費者保護基本法」が定められました。

本市でも自立した消費者を目指して、くらしに役立つ講座「消費者セミナー」や、ご希望の地域への出前講座など、消費生活に関する情報提供を行っています。また、消費者センターを設置し、消費生活相談や消費者団体の育成など消費者行政の推進に積極的に取り組んでいます。

最近の消費者相談

消費者センターに寄せられた平成4年度消費生活相談は2,308件でした。



21世紀を担う
人づくり



男女共同参画社会

今や女性は様々な形で社会に参加・参画し、生き方が多様化しています。また、それに伴い男性の生き方も再考を迫られています。

21世紀を目前にし、市では男女共に社会のあらゆる分野に参加・参画し、平等な立場で個性と能力を発揮し共に支え合う、いわゆる『男女共同参画社会』の実現をめざしています。このため「くまもと市女性プラン」を策定し、あらゆる分野での男女平等を推進するとともに、幅広い分野にわたっている女性に関する施策を総合的・計画的に進めています。

また、女性自身の意欲と能力を高めるため、自主グループ登録制度を設置し、自主的な女性グループの交流や連携を図る一方、女性リーダーの養成や人材把握にも努めています。

さらに、男女平等や女性問題に関する啓発事業として、女性フォーラム等

の開催や地域に根ざした啓発活動、啓発情報誌「はあもにい」の発行などにも取り組んでいます。

熊本市総合女性センター

男性も女性も共にいきいきと暮らす、調和のある市民社会の実現を目指して、男女の自立や社会参画のための活動と交流の拠点として、また市民文化振興の拠点施設として平成2年4月オープン以来68万人(平成6年3月現在)を超える方々にご利用いただいております。センターでは、女性を取り巻く社会問題を解決するために、女性問題啓発事業・自己開発事業・生き方支援事業・情報提供事業を行うとともに、新たに女性の健康づくり事業を加え、あらゆるライフステージにおける女性の生き方を応援しています。また会館から生まれる文化と人を目指して、地域に根ざしたいろいろな文化振興事業を展開しています。

さらに、平成4年度から高度情報化時代の映像メディアであるハイビジョン機器を設置し、地域

文化の発信基地としての役割も担っています。



くまもと女性フォーラムでの小学生による公開授業



カルチャーフェスタ'93におけるパネルディスカッション風景



自主グループ 小物づくり講習

21世紀を担う
人づくり

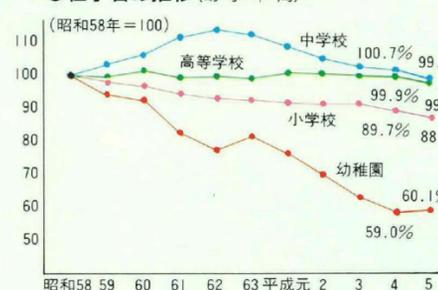


学校教育

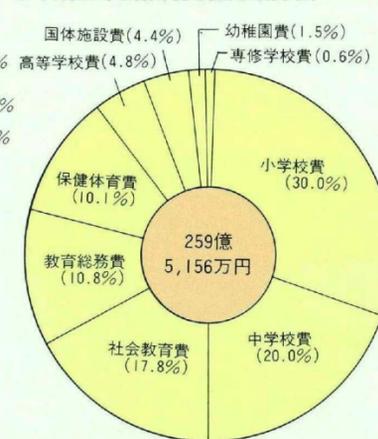
本市は、21世紀を担う児童・生徒の育成のために、3つの学校教育努力目標を掲げています。各学校においては、これらを受けて、地域や各学校の実態に即した特色ある学校目標の具現化に心血を注いでいます。

1. 豊かな心と活力に満ちた人間の育成 「ヒューマンシティ・くまもと」の実

●在学者の推移(幼・小・中・高)



●平成6年度教育費(歳出当初予算)



コンピュータを使った幼児と
中学生の交流学習風景

現をめぐりて心豊かな児童・生徒の育成に力を入れています。

特に、生徒指導、環境教育、福祉教育などの実践校を指定し、これらの教育の先導的役割を担って実践研究を推進しています。

また、全教育活動において、同和教育の視点に立ち、全ての児童・生徒の

人権を尊重し、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくしていくよう実践的態度の育成を図っています。

2. 基礎学力の充実と個性の伸長

これからの教育は、知識・技能の量的なものだけでなく、学習への関心・意欲・態度等を重視していくことは無論、個性豊かな人格の育成が必要です。そのために、ゆとりある生活の中で、一人一人がよさを発揮できる情緒ある学校生活が展開されるよう図っています。

また、基礎的・基本的事項を明確にし、確実な定着が図れるよう指導方法の工夫改善に積極的に取り組んでいます。

3. 健康な心身の育成

高齢化が叫ばれる中、生涯にわたり心身ともに健康で充実した生活を送ることができるような基礎的な能力や態度の育成に力を注いでいます。

たくましい体づくりに楽しい給食活動の工夫にも取り組んでいます。

教育センターでは、不登校など教育相談活動の充実を図っています。

*国際化への対応

国際理解を深め、豊かな国際性を身につけるため、国際理解実践校を指定しています。

また、アメリカなどから英語の先生を招いて、生きて使える英語学習を進めています。

*指導者研修

教育センターにおいては、さまざまな教育課題の解決のため必要な調査・研究をはじめ、指導力向上を図るための場と機会を積極的に提供し、その活用を図っています。

*家庭・地域社会との連携

学校教育目標達成のためには、PTA活動など家庭、地域社会との連携を図らなければ実現するものではありません。今後ますます開かれた学校づくりを推進していきます。

21世紀を担う
人づくり



学校施設

うるおいとゆとりのある教育環境づくり

徳・知・体の人間形成には、うるおいとゆとりのある教育環境が必要です。市では、より豊かな教育環境づくりを進めるために、校舎の増改築をはじめ、学習指導方法の多様化に対応できる施設の整備、教育の適正化を図るための過大規模校の分離新設、体力向上を図るための体育施設の整備拡充、文化性を取り入れたふれあいの場づくりなど、毎年計画的に質的整備を進めて

います。

平成5年度は、「力合中学校」と「龍田中学校」の新設2中学校が開校し、また、平成元年度より進めてきました五福小学校の全面改築工事が完了しました。

五福小学校は、五福地域開発センターと一体化した4階建ての複合施設であり、地下1階・1階に温水プール、2階・3階にクラブハウスを備えた体育館を設置し、地域へ開放しています。

このような学校施設は、県下でも初めての試みであり、地域との一体化を目指した学校施設です。

また、学校の顔である正門及びその周辺付近の整備も実施しており、都市景観と合致した緑豊かな教育環境づくりを進めています。

心身共に健全な児童生徒を育成するために、今後もうるおいとゆとりのある教育環境づくりを推進していきます。



五福小学校温水プール

21世紀を担う
人づくり



社会教育

生涯学習の推進

市民の学習意欲が年々高まる中で、本市では年間約41万人の方が、公立公民館等において生涯学習に取り組んでいます。また、その他の利用者を含めると約63万人に達します。

本格的な生涯学習社会の到来の中で、社会の変化や市民のニーズに的確に対応する生涯学習の総合的・効果的な推進を図るため、平成4年8月「熊本市生涯教育基本調査委員会」から「熊本市における生涯教育推進方策」について3項目にわたり提言を受けました。この提言をふまえ、本市が先に策定した21世紀を展望した「基本構想」「基本計画」における生涯教育・学習の諸施策について取り組んでいます。

図書館

図書館は、58万冊余の図書資料の貸出、読書相談のほか、図書展、本の読み聞かせや紙芝居、読書啓発の講演会、視聴覚ライブラリーの市民映画の会、子供映画の会等の催しを行っています。

また、図書館は、移動図書館、分館機能を有する9ヵ所の公民館図書室と共に本市の図書サービスネットワークを形成し、多数の市民に利用されています。

なお、高度化、多様化した市民の読書需要にこたえ、21世紀を展望した生涯学習の基幹施設として、更に、旧飽託郡四町との合併による新熊本市に相応した新図書館の建設について、基本計画を策定中です。

公民館

専用施設の中央公民館と各地域に複合施設として、西部、南部、東部、龍田、託麻、幸田、清水、秋津、大江、花園、北部、飽田、五福公民館の合わせて14の公立公民館があり、また北部公民館に北部東、西里の2つの分館があります。

このほか、市民の身近な生涯学習の場である地域公民館(公民館類似施設)が402館あり、それぞれ地域の特色を生かした様々な活動を展開しています。

博物館

熊本城三の丸地区にある博物館は、自然・人文・理工科学関係資料約5,000点を展示し、これに最新のプラネタリウムを併設した県内唯一の総合博物館です。

また、資料収集・調査等を行うとともに教育普及活動として「星を見る会」をはじめとする各種学習講座の開設、特別展示会を開催するなど多くの人々に利用されています。

平成5年度は、火の国フェスタ'93協賛「肥後の船と人々の暮らし」の特別展を開催し好評を得ました。

人権啓発

日本国憲法は、すべての国民に基本的人権の享有を認め、生命・自由及び幸福追求に対する権利を尊重し、さらに法のもとに平等であることを保障しています。

しかし、今日なお、部落差別をはじめじめや体罰の事実、女性や障害者及び在日外国人に対する差別の問題など、一日も早く解決しなければならない人権問題が存在しています。

なかでも、部落差別は、日本社会の歴史的発展過程の中で作り出された不合理な差別であり、同和地区に生まれたというだけで、結婚や就職に際して差別を受けたり、生活環境が低位の状態に置かれたり、職業が不安定であるなど、市民的権利と自由が侵害され、時には生命まで奪われるという深刻な問題であります。

本市では、これらの問題解決は行政の責務であるとの認識のもとに、市民一人一人が同和問題をはじめとするあらゆる差別の本質をはっきりとらえ、自分の課題として受け止められるよう、講演会・研修会の開催、啓発資料の作成、市政だよりによる啓発など、市民生活のあらゆる場で教育・啓発に力をいれています。

21世紀を担う
人づくり



青少年の健全育成

21世紀を担う青少年が、心豊かで心身ともに健全に育つよう、家庭・地域社会・学校が緊密に連携しあっていく必要があります。

1. 健全育成活動の推進

家庭や地域社会の教育の在り方について、市民の意識啓発に努めるとともに、青少年健全育成活動の活性化や青少年団体の育成に力をいれます。また、リーダー養成のため、「青少年指導者技

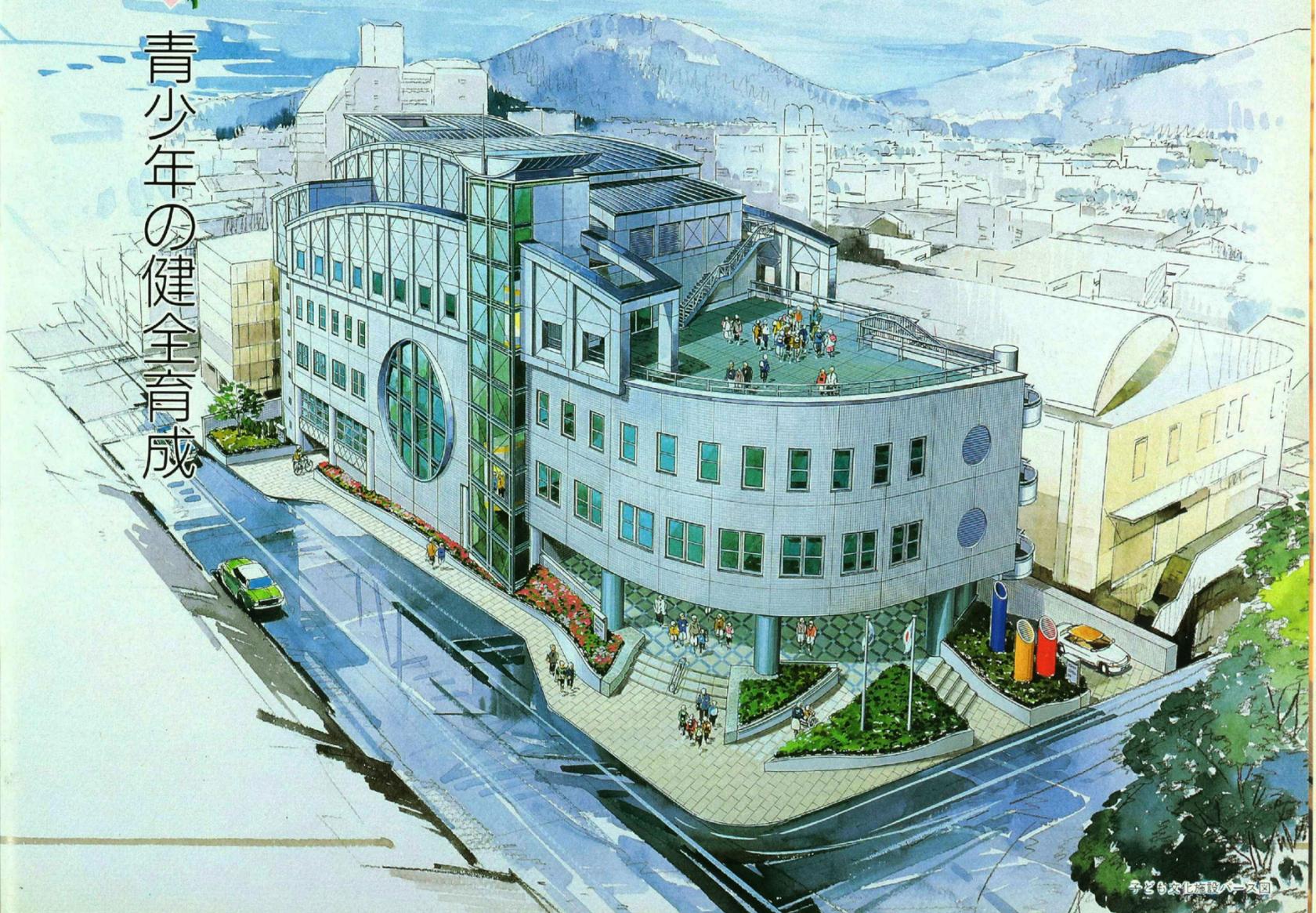
術講座」や「キャンプリーダー講習会」などを開催します。放課後に、保護を受けられない児童のための児童育成クラブの開設、青少年補導センターやヤングテレホンの充実、有害環境の浄化などにも取り組んでいます。

2. 青少年施設の整備充実と交流の推進

「金峰山少年自然の家」、阿蘇大観峰の麓にある「青少年野外活動センター」、島崎5丁目の「ユースホテル」、出水

2丁目の「総合体育館・青年会館」などに加え、今秋には、子ども達が遊びながら学べる「子ども文化施設(仮称)」が、新町にオープンする予定です。

また、中南九州各市への中学生訪問団の派遣、桂林市やサンアントニオ市、ハイデルベルク市への高校生並びに青少年訪問団派遣、交換留学、文化スポーツ交流など、青少年の国内・国際交流にも力をいれています。



子ども文化施設ベース図



公民館での親子のわらじ作り

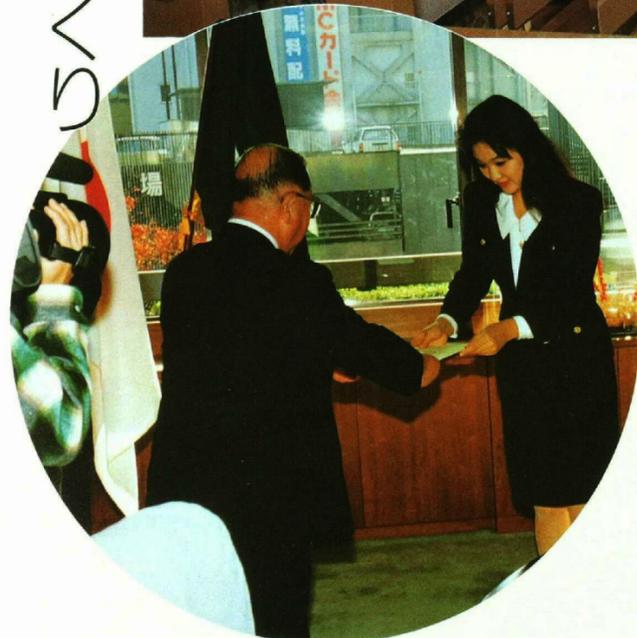
21世紀を担う
人づくり



創造的な人づくり



伝統的な織物肥後絣の復元 (伝承文化部門)



人づくり基金交付式

市制100周年記念人づくり基金制度

平成元年の市制施行100周年を記念して、市民各層から寄せられた多額の浄財とふるさと創生資金をもとに「熊本市制100周年記念人づくり基金」を創設しました。

この人づくり基金は、来るべき21世紀に向けて、熊本市が更に飛躍・発展するために、様々な分野において指導者として活躍する、国際感覚を備えた創造性豊かな人材を育成することを目的とし、

1. 環境の保全と創造
2. 国際交流
3. 社会福祉
4. 伝承文化の継承

5. その他

の各分野に積極的に貢献する個人・団体を対象に、平成3年度から毎年2回(前期2月、後期8月)の募集を行い、研修・研究活動等への援助を実施しています。

平成5年度には前後期合わせて29件の申し込みがあり、人づくり基金選定委員会における審議の結果、12件の個人・団体の方々が援助を受け、様々な研修活動を行いました。

これまで64件の熱意ある個人・団体の方々が援助を受けられ、それぞれの分野で研鑽を積み、ふるさと熊本のため、素晴らしい活躍をされています。



活力あふれる
交流拠点都市を目指して

本市は、優れた個性を生かし、多様な都市機能の集積を図り、世界に開かれた人・物・情報の活発な交流拠点を形成する。また、未来を開く新しい技術や情報を活用し、多様な産業活動が活発に営まれ、国際社会の平和と繁栄にも貢献する都市を目指す。

